

平成19年3月1日
(2007)
第70号
毎月発行
編集
公民館だより編集室
発行
西東京市保谷公民館

西東京市 公民館だより

田無公民館
南町5-6-11
TEL 461-1170
芝久保公民館
芝久保町5-4-48
TEL 461-9825
谷戸公民館
谷戸町1-17-2
TEL 421-3855

保谷公民館
柳沢1-15-1
TEL 464-8211
住吉公民館
住吉町6-1-25
TEL 421-1125
ひばりが丘公民館
ひばりが丘2-3-4
TEL 424-3011



和気あいあいと「出前コンサート」

歌声高らかに 田無混声合唱団

田無混声合唱団



今から30年前（1977年）、「私達の市に混声合唱団を作ろう」という市民の呼びかけで田無混声合唱団は発足しました。以来、田無公民館を練習場に、約2年に1回の演奏会や「ふれあいコンサート」など、地域に根ざす合唱団として様々な活動を展開してきました。

今回は活動のひとつである、地域の高齢者施設や病院等の利用者に歌声を届ける「出前コンサート」の様子を取材しました。

♥**歌声をプレゼント**
平成18年の暮れも押し迫った12月18日、田無町にある「健光園デイサービスセンター」の40畳近いフロアの一角から、田無混声合唱団の澄んだ声が聞かれました。

この日は、クリスマスコンサートということもあり、白いシャツにリボンネクタイをした男性団員8人、女性団員12人の総勢20人が「冬景色」や「きよしの夜」など11曲を披露しました。

曲の合間に挟むトークを担当したのは、団の創設時からのメンバーである甲斐さん。歯切れの良い語り口調で場を盛り上げる司会ぶりは、とても生き生きとしています。

演奏に耳を傾けている30人近くのお年寄りの方々の中には、目をつむって頭を揺らしながら聴く方や、口ずさみながら手拍子を打つ方が。中でも、おなじみの曲「お山の杉の子」が演奏されると、団員の声に合わせてみんな元気に歌い、会場は大きな声で包まれました。

♥**出前コンサートのきっかけ**
現在の団員は、男性15人、女性30人の45人。20歳代から70歳代と、年齢層が大変幅広いサークルです。

出前コンサートを始めたのは8年前の1999年。今日の演奏で通算26回目になりました。

「最初は団としての活動ではなく、地域に根ざした活動をしたいと願う有志が始めました」と世話役の平岡さん。

出前コンサートが団の活動の一環として位置づけられたのは5年前。今は活動費が団の経費から支出されますが、以前は準備する楽譜代等全てが有志の持ち寄りでした。

回を重ねるうちに、実施のノウハウも向上してきました。また「みんなで出前に行こうよ」という雰囲気も定着しました。

「演奏日が平日の時は、仕事の都合をつけて参加する人もいます。出前には常時20人前後のメンバーが集まるんですよ」と、同じ世話役の樋口さん。

「長年の間に『人と人とのふれあいや、地域を大切にしよう』という団創設当初からの目的が根を張り、浸透してきたと感じています」と代表の吉村さん。

ある高齢者施設でのこと。コーラスに合わせて歌っていた認知症の母親に、「お母さん、歌っていたね。うれしかったけど、歌と同じように僕の名前も忘れないでくれよ」と、車椅子を押しながら語りかける息子さんの姿を見て、胸を打たれたこともあります。

また、ストレッチャーに乗っていて、ほとんど身動きができない方が、歌に合わせて指先で拍子をとって聴いてくれる姿も目にしました。

「歌が人の心を動かしたのでしょね。歌には不思議な力があるんです」と語る吉村さん。

♥**歌が心を動かす**
市民に支えられ、共に歩みながら、歌う喜びを地域に広げていく活動を、今後も続けていくこととしていこう。

♥**永く歌を響け**
「人付き合いが疎遠になった今だからこそ、人と人とのふれあいを大切にしたいのです。これから、市民とのふれあいを大切に活動していきます」と、平岡さん。

市民に支えられ、共に歩みながら、歌う喜びを地域に広げていく活動を、今後も続けていくこととしていこう。

次に文字が白く出る「白文」、赤く出る「朱文」のどちらを制作するかを決めてから文字を彫ります。削る石の大きさは、一般的には3cm四方が多く、堅さは口右石に近くて比較的柔らかいものが多いです。毎月1個、1年に12個の印が出来上がると、全員の印を押しつけた冊子を作成します。

今回は、ひばりが丘公民館で第1・第3木曜日に活動している「篆刻同好会」を訪問しました。同会は、4年前にひばりが丘公民館の主催講座「初心の篆刻」から自主グループになりました。

会員数は、現在10人で、女性2人、男性8人です。

活動は、まず毎月講師が漢詩から取った二文字から四文字の課題を出し、会員が「五体篆書字典」の中から自分の使いたい文字（小篆・甲骨文字・金文・印篆）を探します。

「同じ文字でも一人一人個性が出るのが面白い」、「毎月、一つずつ作る目的があるのが良い」、「彫ることが楽しい」と会員の皆さんは言います。講師の先生も「課題として出す文字は、漢詩の中から選んでいます。会員の皆さんに示すためには、文字の意味を理解し、勉強しなくてはいいけませんから、お互いに勉強です」とおっしゃっていました。

同会は、いつも部屋の中だけで活動している訳ではありません。毎年、ひばりが丘公民館のロビーで今までの成果を展示しています。また、篆刻の美術館や展示会にも積極的に会員同士で出かけて行きます。

道具がなくても大丈夫。篆刻刀、石、朱墨（3点セット）を会場で用意します。見学も自由です。

随時会員を募集中です。

連絡先 森 ☎423-7186



サークル訪問 ～篆刻同好会～

